



あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行
2024年1月4日
(第34号)

1月

明けまして
おめでとう
ございます

「所変われば品変わる!?お雑煮」

所変われば品変わる。その土地によつて風俗や習慣、言葉、物の名称までもが違つて、何を意味しています。お正月などに多くの家庭で食されている「お雑煮」もその一つです。

(農林水産省HPより)

一般的に餅の入った汁物が雑煮と呼ばれ、主に正月などハレの日に食べられます。

おへん知らわれているものだけでも、その種類は100を超えるほど多様。作り方や具材の違いなど、細かな特徴にまで着目すると、さらに種類は増え、集落の数だけ雑煮の種類があるといわれています。

特徴的な地域を紹介すると、北海道は、明治時代に開拓使が置かれ、全国から人々が

集まった影響で多種多様な雑煮が食べられています。また、鹿児島の一部では、雑煮に入れる餅の形については角と丸が混在しています。なお、沖縄では古来から食べる習慣がなかったとか。

各地のお雑煮は角餅か丸餅か、餅を焼くか焼かないか、だし汁は、かつお節か昆布か鶏ガラ

か、調味料は味噌か醤油か...などに加え、縁起が良いとして入る食材もありますので

本場に多種多様です。所変われば品変わる...。何気なく食べている

いつものお雑煮も、地域や集落、家によつて異なるようですね。あなたの家のお雑煮はどんな

お雑煮ですか？



お知らせ



☆蔵書点検のため休館いたします
2月5日(月)~8日(木)
蔵書点検中は、通常業務は行いません。
ただし、返却△(返却ボックスのみ使用可)
予約△(蔵書検索システムからの予約のみ可)
※予約本は9日から順次手続きいたします。

☆人権講演会
「ヤングケアラー物語」
～元当事者と考えるこれからの地域社会づくり～
2月3日(土) 10:00~11:30
朝日村役場 大会議室にて開催
講師は「48歳で認知症になった母」の著者、美齊津康弘さんです!



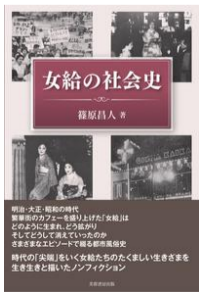
図書館の思い出 百瀬 司郎

「本を読んで初めて泣いた日」
あれはシロウ少年が小学五年の夏休みのこと、屋下がり明るい光の射す自宅で畳に寝転がって一人本を読んでいた。本は「フランダースの犬」学校の図書館から借りてきた。シロウ君はよく図書館に通う子だった。その本は初めてからシロウ君を夢中にさせた。貧しい絵の好きな少年にとって、荷車引き犬のイラストの物語である。何で人々はこんなにいじめるんだ?と腹立たしく思いながら読み進め

る。祖父が亡くなり一人になった。ネロに世間の風は厳しく、最後の頼みの絵のコンクールにも落選。最終章のネロとパトラッシュの最期の場面では自然と涙があふれてきた。初めてのことにシロウ君は驚いた。涙は止めどなくほおを伝って本に落ちた...
あれから六十年が経つ。様々な本に出合った。今も私の寝床の枕元には必ず本がある。とはいえもう難しい本ではなく藤沢周平とか「ゴルゴ13」も交じっている。雑多なのだ。本があることに落ち着くのである。

新春特別企画「開運?おみくじ」

図書館に来たらおみくじを引こう! おみくじに書いてある「開運?アイテム」を手に入れたらさらにいいことがある...かも♪
今年最初の運だめし吉と出るか凶と出るか...
1/4~2/18まで



「女給の社会史」
著者: 篠原昌人
出版: 芙蓉書房出版

時代の「尖端」をいく女給たちのたくましい生き様を描いたノンフィクション
明治大正・昭和の時代、繁華街のカフェを盛り上げた「女給」はどのような生き様でいったのか。様々なエピソードで綴る都市風俗史。